

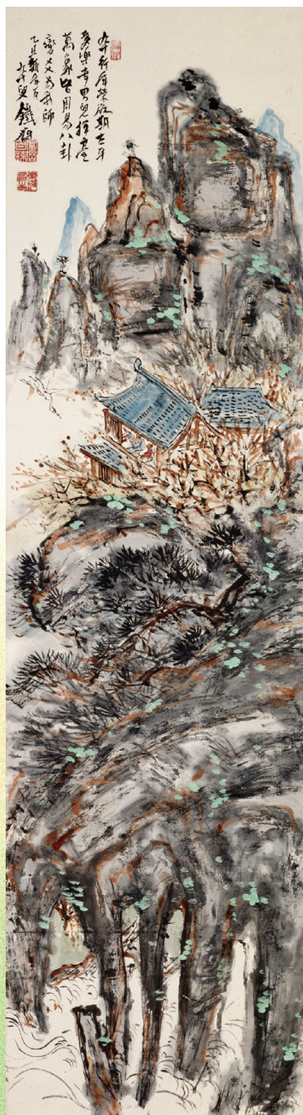
須田記念

2022年8月 第7号

# 視覚の現場

特集

オールドが今言いたいこと



## 目次

第7号の発刊にあたって／原田平作	2
表紙解説／富岡鉄斎《扶桑神境図》・同《瀛洲仙境図》／原田平作 須田国太郎のグリコのおもちゃコレクションより／湯浅ひろみ	4

カラー図版 須田国太郎が撮ったとみられる写真／原田平作構成	5
-------------------------------	---

### 須田国太郎論

須田国太郎にとっての写真と諸資料の点検／原田平作	9
--------------------------	---

### 特集 オールドが今言いたいこと

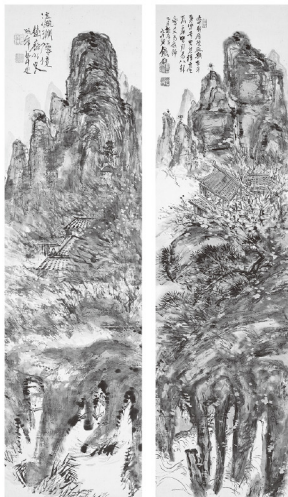
『京都府百年の年表 8 美術工芸編』編さんの頃の思い出／太田喬夫	16
相阿弥の《傲杜甫五言絶句》短冊／太田孝彦	18
京都の日本画 画塾から研究団体への変遷から見ること／太田垣 實	20
「神人」と遊び、絵を描く子規／鳥谷照雄	22
調査資料（調書、ノート、メモ、写真等）の保存と保管について／木村重圭	24
スポーツと芸術／島本 澁	26
越し方を思い、行く末を考えてみる／原田平作	28
美術と人生——確かな眼をもつ／眞室佳武	30
大雪原の上に広がる自由奔放な造形／吉村良夫	32

### 画廊主のアルバム

流行と底流——現代美術のトレンド50年／天野和夫	34
--------------------------	----

SUMMARY／各執筆者（川上幸子訳）	40
---------------------	----

財団からのお知らせ	41
-----------	----



## 表紙解説・表

### (右) 富岡鉄斎《扶桑神境図》

1924年（大正13）

紙本着色、軸 144.4×39.2cm 清荒神清澄寺蔵（写真提供：便利堂）

### (左) 富岡鉄斎《瀛洲仙境図》

1924年（大正13）

紙本着色、軸 142.6×40.2cm 清荒神清澄寺蔵（写真提供：便利堂）

自由奔放にして柔らか味のある筆法と、全体としての調子を感じさせながらそれぞれに艶のある色彩感。一言で言うとならぬ富岡鉄斎（1837～1924）の特色はこんな風に言えるかと思うが、このような特色は多くの近代作家に当てはまる特色であり、逆にそうなるのが鉄斎の最大の特色となるものであろう。具体的に言うとゴッホ（1853～1890）やフォーヴィスム（野獣派）の作家たちと、共通するものを持っているということでもある。

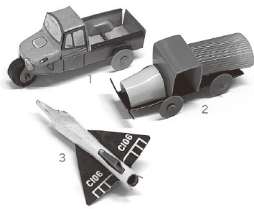
ここに示した二作は、共にそのような鉄斎の「九十落款」の作品として知られている作品で、鉄斎は1924年（大正13、89歳）12月31日に急逝したのであったが、その前に落款に「九十叟」とか「時年九十也」とか記して作品を制作したことがあった。それらを総称して「九十落款」と言っている。「扶桑」は日出ずる東海の神境に生える樹木であり、「瀛洲」は仙人が住むという神境を意味し、同じような題材をやや異なったタッチと色感で描いている。鉄斎は幕末に京都で生まれ、目まぐるしく展開した明治維新を目の当たりに

し、神官などをつとめた後、画業を専らとするようになったわけであるが、美術史の系譜からみると、南宗画を学びそれを基調としながら、やまと絵や琳派、更には浮世絵なども学んで自己を確立したと言えよう。（原田平作）

## 表紙解説・裏

### 須田国太郎のグリコのおもちゃコレクションより

1953～1957年のおもちゃ3点 三之瀬御本陣芸術文化館所蔵



日本近代洋画壇で活躍した、須田国太郎（1891～1961）。その知られざる収集にグリコのおもちゃ（オマケ）コレクションがある。「グリコ」は商品名の由来となった、牡蠣の成分グリコゲンが入った栄養菓子のキャラメルである。1922年の発売当初からオマケが付き、現在に至るその歴史は100年におよぶ。

このおもちゃの発想や造形に魅了されて収集した須田国太郎。現存しているものは1949年から1961年までのおもちゃで、その数715点。1949年は戦後、江崎グリコが本格的に復活した年と重なっている。しかし、ご子息によれば1935年頃からすでに収集を始めていたという。

写真のおもちゃは1953年から1957年頃のもので、[1]は東洋工業（現・マツダ）のオート三輪をミニチュアにしたブリキ製のおもちゃ。[2]はセルロイド製のカラフルなタンクローリー。[3]はコンヴェア106をかたどった戦闘機。いずれも3cmほどの小さな豆玩具であるが、非常に精巧にできており、子どもたちのあこがれとして時代の最先端を素早く反映させたものであった。須田はこれらのおもちゃを時々出しては眺め、机の上で車を動かしてみたりしながら、そのデザインや創りに感心していたという。須田の意外な一面を知れる貴重なコレクションである。

（三之瀬御本陣芸術文化館学芸員 湯浅ひろみ）